

日本スポーツ振興センターNTC共用コート事故原因調査等委員会報告書【概要】

事故の概要

● 発生日時

平成29年6月10日(土) 11時25分頃

● 負傷者の行動

バレーボール男子ジュニア合宿に参加していた選手が、バレーボールのレシーブの練習中、後方に飛んだボールを追いかけて、レシーブをしようとジャンプし、着地の際にスライディングをしたところ、床材の一部が剥離し、その木片が右太腿に突き刺さり、重傷を負った。(図)

● 事故現場の状況(写真1~3)

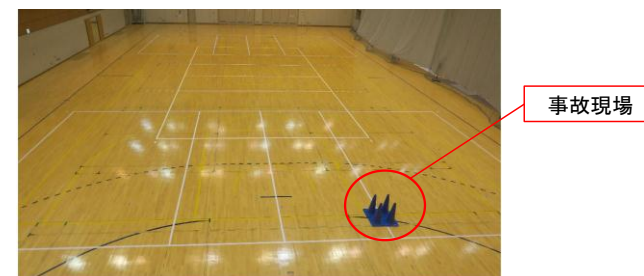
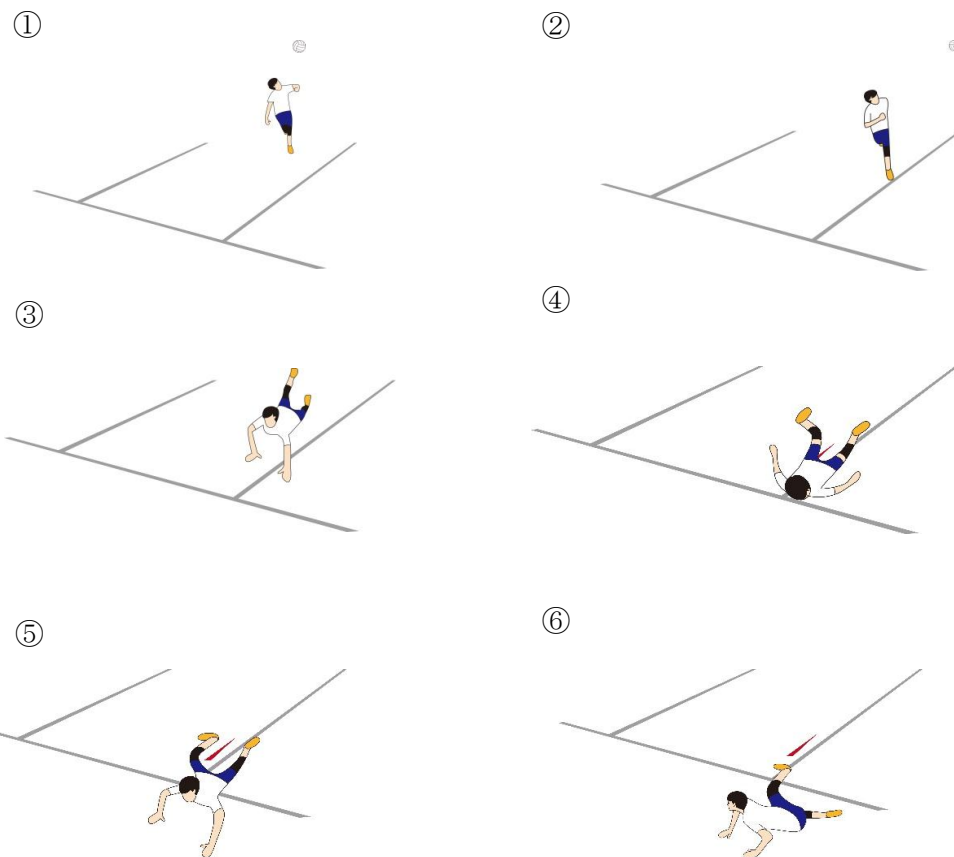


写真1 事故現場の写真

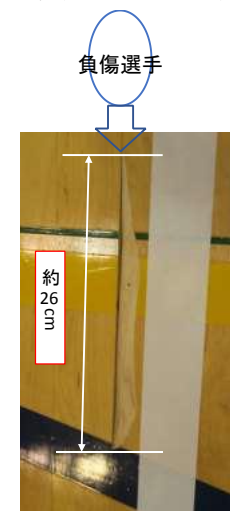


写真2 剥離した床の状況



写真3 剥離した木片

図 監視カメラ映像で確認した事故時の負傷者の状況(イラスト)

【床板が剥離するに至った物理的な要因】

事故発生時以前から床板が剥離していたのか、レシーブにより床板が剥離したのかは確定的な結論を出すことは困難で、床板が剥離した物理的な原因を特定するには至らなかった。

あくまで推測の域を出ないが、元々ひび割れが床板に生じており目視では確認できない程度の浮きがあったか、あるいは本件事故時のレシーブの際に一瞬浮き上がるなどして、その浮き上がった部分にユニホームが引っかかり、そのまま体が滑るスピードとが相まって床板が剥離し、滑らせた体(太腿)に突き刺さった可能性が考えられる。

なお、日本体育施設協会による調査では、床板が剥離した直接的な要因あるいは遠因として次の可能性が挙げられたが、いずれも床板の性能劣化を生じさせて、剥離の原因となったと特定するまでには至らなかった。

- ・本件事故現場の近くに空調の吹き出し口があり、冷風が当たる場所であったことによる床板の含水率への影響の可能性
- ・バスケットボールのゴール下でアスリートの動きやゴール機材の移動等により特に負荷がかかる場所であったことによる床板のひび割れ等の発生の可能性
- ・床下地材に遮音材を使用したことによってフローリングのたわみを生じさせた可能性

【共用コートの保全・管理面から考えられる要因】

共用コートの保全・管理面から考えられる要因として次の点が挙げられているが、直接的な原因となったと特定するまでには至らなかった。

・メンテナンス上の問題

共用コートについては、平成22年2月～3月に一度、再塗装及び全面サンダー掛けが行われただけであり、仮に平成22年の改修(再塗装)後、何らかの再塗装等が行われていれば、本件事故現場を含め、少なくとも現在よりは良い状態を保っていたはずである。

・日常点検について

共用コートを利用する競技団体において、使用にあたって目視等で床板のひび割れ等がないかチェックしていたが、所有者である独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)あるいは、競技団体等への貸し出し等の運用を担っている公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)による日常的な点検は行われていなかった。JSCでは、日常清掃の中で清掃業者の目視による点検を行っていたが、共用コートのフロアのひび割れ等のチェックは委託の趣旨に含まれているとはいえ、これをもって日常点検が行われていたとは評価し得ない。

・専門家による定期点検について

共用コートについて、フロアの専門家による定期点検は行われていなかった。

・役割分担が不明確であったこと

前述の通り、日々の日常点検が、使用する競技団体側のみ任せられ、所有者であるJSCの日常点検が行われていなかった。また、実際に共用コートの競技団体への貸し出し等の運用を担っていたJOCも、日々の日常点検を主体的に行っていなかった。

これは、所有者であり賃貸人はJSCであるが、共用コートの供用開始直後から、JOCが一括借り上げという形で各競技団体の利用の取りまとめを行い、ほぼ全面的に共用コートの運用を担っていたという、若干特殊な関係性がある中で、両者間の役割分担、責任関係を明確にしていなかったことが強く影響していたものと考えられる。

(1) 利用実態に即した計画的な改修(再塗装など)の実施

計画的に改修(再塗装等)を実施する必要がある。専門家とも相談した上で改修計画を立て、定期点検や日常点検により不具合を発見した場合には、速やかに専門家に相談し、従前の改修計画にとらわれることなく、部分補修や改修を行うなど、柔軟な保全対応が求められる。

(2) 実効性のある日常点検の実施

より実効性のある点検とするために、共用コートの利用者に対して、類似の事故に関連して消費者安全調査委員会から提言されている内容(目視の担当範囲の設定、ダブルチェック、ストックングの利用等)や床板のチェックポイントの教示、木製床に関する専門的な知識や技能を持っていない人でも利用可能な簡易チェック表の作成、提供などを行い、その運用を徹底することが必要である。

(3) 専門家による定期点検の実施

定期的に専門家による点検を行うことは、日常点検では見つけることが困難な床板のひび割れ等の有無の確認や危険個所の早期発見、利用実態に即した改修計画の見直しにもつながるため、専門業者による定期点検は必須である。

(4) JSC、JOC、利用者(競技団体等)の役割分担の明確化

役割分担・責任関係を明確にすることは、これを負う当事者に対して安全面への意識を徹底させることに繋がり、ひいては、事故の再発防止へと寄与するものであり、今後は、JSC、JOC及び競技団体などの関係者同士で協議を行い、共用コートの維持管理の役割分担を明確にすべきである。

(5) 適切な日常清掃の継続

今後も、水分の使用を最小限に抑えた(木の床は総て人工乾燥が行われており水分の使用は避けることが一般的)適切な日常清掃を継続していくことが望ましい。

(6) 情報共有の徹底

競技団体など、関係団体に対し、改めて、体育館の床板剥離による負傷事故の現状と現時点で取り得る対策の共有を徹底すべきである。